寒さを楽しむ冬

冬を、避けるものではなく、
味わい、楽しみ尽くしたい。
旅の行き先は、雪に包まれた山形。
凛と澄んだ光が、白銀の世界を照らす。

ロープウェイに乗って、雲の上の世界へ。待っていたのは、蔵王の樹氷。
氷と雪のベールをまとった、自然が生み出すアート。
スノーモンスターと呼ばれるその姿は、厳しさの中にしか現れない、冬からの贈りものだ。
針葉樹が生える植生と、蔵王連邦の気候が作り出した奇跡の光景を目に焼き付ける。

翌日は、冬の山寺へ向かう。
雪に包まれた石段は音を吸い込み、歩みを進めるほどに静けさが深まっていく。
白に縁取られたお堂や岩肌は、まるで水墨画の中を歩いているかのよう。
一段一段登るごとに、余計な思考が削ぎ落とされ、心が澄んでいくのを感じる。
見晴らしの先に広がる雪の山々は、厳しくも美しい。

冷えた体を、湯けむりが迎えてくれる。
雪景色を眺めながら浸かる温泉は、冬の山形ならではの時間。
蔵王温泉にある善七乃湯には、七福神にちなんだ露天風呂があるとか。
中でも、笑顔と福を象徴する布袋尊の湯、長寿と幸福を司る福禄寿の湯は、
雪に包まれた景色を間近に感じられる。
そのほかにも、趣の異なる七つの湯が用意され、湯船を変えるごとに、自然の表情も少しずつ変わっていく。冷え切った体は、ゆっくりとほどけ、寒さは、ここでやさしさに変わる。

街へ戻ると、江戸から続く初市の賑わいが広がっている。
新しい年の無事と商売繁盛を願い、人々が集ってきた冬の市。
だんご木に託すのは、豊作と家内安全。
初飴には、一年の甘い始まりを願う思いが込められている。
あつあつのどんどん焼きを頬張ると、冷えた指先まで、じんわりと温もりが伝わってくる。
寒いからこそ、人は外へ出て、声を交わす。
冬は、人を引きこもらせる季節ではなく、人と人を近づける季節でもある。
静かな白さの中に、確かなあたたかさが息づいている。

夜。空を見上げると、冬の花火が咲く。
空を見上げ、
「今年はどんな一年になるのかな」
と想いを馳せる。

寒さの中に灯るあたたかな光が、
冬の山形を忘れられない場所にする。

厳冬が生み出す
奇跡の景色

蔵王の樹氷

なんといっても見てほしいのが蔵王の樹氷です。樹氷は、ただ雪が積もってできるものではありません。氷点下の気温の中、強い季節風が運ぶ雪雲が、針葉樹に過冷却水滴を吹き付けることで生まれます。
凍らずに漂っていた水滴が枝に触れた瞬間に凍り、それが何度も重なり合うことで、やがて木全体を覆う巨大な氷の塊へと育っていきます。蔵王連峰の地形と気候、そして針葉樹林という条件がそろって、はじめて現れるこの光景は、世界的にも珍しい自然現象です。
迫力ある樹氷は、夜に見てもらうのもおすすめ。樹氷幻想回廊ツアーという夜のツアーも開催しているので、ぜひ参加してみてください！
「スノーモンスター」と呼ばれるその姿は、厳しい冬があるからこそ出会える、冬からの贈りものです。

〒990-2301 山形県山形市蔵王温泉

冬の空に咲く光

ウィンターフェスティバル

夜、澄んだ空気の中で、
霞城公園の空に花火が打ち上がるのが、ウィンターフェスティバル。
冷たく澄んだ空に広がる光は、より鮮やかに心に残ります。
「今年はどんな一年になるのだろう」
そんな思いを胸に、冬の夜を締めくくります。

〒990-0826 山形県山形市霞城町１

color 05

寒さを楽しむ冬

山形の冬は、寒くて雪深い。
そうしたイメージをお持ちの方も多いかもしれません。
ですがこの土地では、寒さを避けるものではなく、
味わい、楽しむものとして受け止められてきました。
そんな山形ならではの冬の過ごし方をご案内します。

YAMAGATA CITY 10 DAYS STORIES

山形のソウルフード「どんどん焼き」

薄く焼いた生地に、海苔や魚肉ソーセージなどを乗せ、箸にくるくると巻いたＢ級グルメ。
山形のソウルフードのひとつです。
食べ歩きにもぴったりのこの味を楽しみながら、山形という土地の魅力をより深く感じてみませんか。

静けさに包まれる

冬の参道 山寺

冬の山寺もおすすめの絶景。
雪に包まれた石段は音を吸い込み、歩みを進めるほどに周囲の気配が遠ざかっていきます。白に緑取られたお堂や岩肌は、
まるで水墨画の中を歩いているかのようです。一段一段登るごとに、余計な思考が削ぎ落とされ、心が静かに整っていくのを感じられます。
見晴らしの先に広がる雪の山々は、厳しくも美しく、冬の山寺ならではの表情を見せてくれます。

〒999-3301 山形県山形市山寺

七つの湯が迎える
冬のぬくもり

善七乃湯

冷えた体を迎えてくれるのが、蔵王温泉です。
善七乃湯には、七福神にちなんだ七つの露天風呂があります。笑顔と福を象徴する布袋尊の湯、長寿と幸福を司る福禄寿の湯をはじめ、寿老人、大黒天、恵比寿、弁財天、毘沙門天の湯まで、それぞれ趣の異なる湯船が用意されています。
湯船を変えるごとに、眺める雪景色や空気の表情も変わり、自然と向き合う時間が深まっていきます。
冷え切った体はゆっくりとほどけ、寒さは、ここでやさしさへと変わっていきます。
ちなみに「善七乃湯」には、巨大なブランコも。アルプス気分でブランコに乗りながら写真撮影もおすすめ！

初市

街へ戻ると、江戸時代から続く山形市の初市の賑わいが広がります。初市は、城下町として栄えた山形で、年の始まりに市神を祀り、商売繁盛や無病息災を願って始まった伝統行事です。
だんご木には、豊作と家内安全への願いが込められ、初飴は、一年の甘い始まりを願う縁起物。あつあつのどんどん焼きを頬張ると、冷えた指先までじんわりと温もりが伝わってきます。
寒いからこそ、人は外へ出て、声を交わす。
冬は、人と人を近づける季節でもあります。
毎年 1月10日開催

十日町角～七日町 国道 112 号

江戸から続く
冬の賑わい